



ホオアカ



ニッコウキスゲ



ノハナショウブ



ココシキリ



たんさく 黄色い花が咲き誇る湿原「ベンセ湿原」

「ベンセ湿原」は、青森県の日本海側、つがる市にあるベンセ沼、平滝沼、大滝沼に囲まれた23ヘクタールの湿原で、6月中旬頃にニッコウキスゲが見ごろを迎え、ニッコウキスゲの群生地として、毎年メディアに取り上げられています。

ニッコウキスゲは、黄色いラッパのような花を咲かせる一日花で、朝に咲いたつぼみが夕方にはしぼみ、次の日は別のつぼみが開きます。

ニッコウキスゲの後は、ノハナショウブが例年7月上旬に見ごろを迎え、湿原が黄色から、紫色に移り変わります。

「ベンセ湿原」は、ニッコウキスゲ、ノハナショウブの群生地だけではなく、貴重な動植物の宝庫でもあり、カエルなどの両生類やトンボなどの昆虫が多く生息しています。また、天然記念物のオオセツカをはじめ、多くの鳥類も生息しており、さまざまな鳥の声を聴くことができます。

周辺には、動植物以外にも、約2万8千年前のエゾマツなどが埋まっている「最終氷期埋没林」や、遮光器土偶（通称「シャコちゃん」）が出土した「亀ヶ岡石器時代遺跡」などがあり、太古のロマンにも触れることができます。

また、ベンセ湿原は、屏風山地域の中央部に位置しており、スイカ・メロンの産地としても有名です。コープあおもりの産直産地である佐藤農園さんのスイカ・メロンは、この周辺で栽培されています。

宅配・店舗での「トルコ・シリア大地震 ユニセフ自然災害緊急募金」へのご協力ありがとうございました。

2023年2月6日、トルコ・シリア国境付近で大地震が発生し、子どもたちと家族が危機下に置かれています。この2カ国で約56,000人の死亡が確認され、またトルコで370万人の子どもが、シリアでは250万人の子どもが、今回の地震で被災しています（日本ユニセフ協会が公表する5月18日時点の情報）。

コープあおもりは危機下にある被災地域の子どものたちやその家族を支援するため、日本ユニセフ協会が受け付ける「トルコ・シリア大地震 ユニセフ・自然災害緊急募金」に取り組み、組合員から寄せられた募金 1,202,889円を6月8日に送金いたしました。

お預かりした募金は、日本ユニセフ協会を通じて、トルコ・シリアで被災した子どもとその家族が1日でも早く日常生活を取り戻せるように、安全な飲み水や衛生用品等の緊急支援物資の提供、教育の再開支援、子どもの心理社会的サポートなど、ユニセフが被災地で行う緊急・復興支援活動に役立てられます。

ご協力いただいた組合員の皆様、ご協力いただきましたこと誠に感謝申し上げます。



店舗に設置していた募金箱（るいけ店）

産直産地のケイホットライスで、田植え作業を体験してきました。



5月19日（金）、産直産地のケイホットライスで、職員3名と組合員理事3名の計6名で田植え作業の体験をしました。

田植え作業の体験といえば、手で植える作業を思い浮かべる方もいると思いますが、今回は、田植え機で行う作業のお手伝いを体験しました。田植え機で植える際の、苗を田植え機に載せたり、使い終わったトレイを洗ったりするなどの作業を行いました。機械化が進んでも、苗の運搬は人の手で行われます。苗が入ったトレイは重量があるため、何度も同じ動作をするのは重労働です。

今回、生産者の皆さんともお話ししましたが、食べてくれる消費者の皆さんに美味しいものを食べてほしい気持ちが伝わってきました。今回植えたお米が秋に収穫されるのが待ち遠しいです。



田植え機への積み込み



苗を入れ替えたトレイを洗います



西弘店での展示

お母さんへの「ありがとう」の気持ちがこもった絵を展示しました。

5月13日（土）の「母の日」に合わせて、県内4店舗で、近隣の保育所・幼稚園の児童の皆さんや、応募で寄せられたお母さんの似顔絵を展示しました。